

第15次秋田市総合計画・人口ビジョンの修正案に係る意見一覧

参考1

【人口ビジョン】

意見No.	意見内容	対応案
1	39ページの合計特殊出生率の仮定について、前回は2040年に2.07だったが、今回は1.8に変更し、2055年に2.07（人口置換水準）を達成するとしているが、出生率の推移が下がっている中で、人口置換水準の達成はハードルが高いのではないかと懸念。	40ページの出生に関する仮定を、秋田県人口ビジョンに合わせ、修正します。
2	図表が見やすくなるよう体裁に留意すること。	掲載している図表の体裁を修正します。

【基本構想】

意見No.	意見内容	対応案
1	基本理念の「共創」について、言葉が一般的でなく、共創が何につながるのかがわかりづらい。	新たな基本理念「響きあう 心躍る 人・まち・くらし 共感と共創で輝く秋田市へ」は、現計画の基本理念「ともにづくり ともに生きる 人・まち・くらし」で目指した市民協働によるまちづくりの先にある姿を示すものであり、「共感と共創」は、その根幹をなす重要なキーワードであると捉えております。 このうち、「共創」という言葉が一般的ではないというご意見を踏まえて修正を検討しましたが、「市民の皆様と共に創る」という意図をよりの確に表現できる言葉が見当たらないこと、パブリックコメントなどにおいて「メッセージ性がある」という肯定的なご意見もいただいていることから、基本理念は修正しないこととし、「共創」という言葉が市民の皆様に着するよう、様々な機会や手法を通じて周知に努めてまいります。 なお、ご意見を踏まえ、「共創」が何につながるのかが分かりやすくなるよう、25ページに説明を追記します。
2	基本理念の「共創」は意味合いとしては理解するが、元々マーケティングから生まれた言葉であり、競争の意味合いも感じることから変更したほうが良い。	
3	戦略1の重点プログラムⅢ「生産拡大と経営安定化による持続可能な農業の実現」に、海外への輸出などの視点も加えてほしい。	国内消費量の頭打ち傾向にある農畜産物の販売拡大のため、輸出促進は取り組むべき課題であることから、33ページ将来都市像1の政策2「〇販売促進」の【現状と課題】に追記するとともに、64ページの戦略1の「戦略設定の背景」に追記します。
4	39ページ「響き合う」「共感と共創で輝く」まちというのであれば、将来都市像2の「多様な主体でつくる元気なまち」にもっと具体性があった方がいいのではないか。 取組の方向が抽象的すぎて、「多様な主体でつくる元気なまち」という将来都市像のコンセプトが伝わりにくい。	将来都市像2「多様な主体でつくる元気なまち」には、主に、市民協働や男女共生社会、地域福祉、こども・若者支援を位置づけ、すべての市民が主人公として尊重され、充実した生涯を送ることができるよう、地域、NPO、企業、行政等の多様な主体が関わり、支えあうまちを目指すものであります。 こうしたことが伝わりやすくなるよう、基本構想の39ページの上段の囲みの文章を修正します。
5	将来都市像2の「多様な主体」が何を指すのか、市民にとってわかりづらい。	なお、基本構想においては大きな方向性を記載し、今後、推進計画において、具体の事業を位置づけてまいりたいと考えております。
6	将来都市像2「多様な主体でつくる元気なまち」について、どのようなことを言いたいのかはわかるが、かなり抽象的なのでこれを見て一般の方々がイメージがつくのか非常に疑問である。「主体性と多様性を尊重するまちづくり」というものは確かに大事だが、少し具体性を持たせて書いた方がいいのではないか。	

7	41ページ高齢者福祉の中で、「健康長寿、高齢者の豊かな経験や知識、意欲をいかした取組が重要」とあるが、高齢者が社会の担い手になっていくことも想定される現状で、福祉的な役割の重要性やエイジフレンドリー宣言としての市の考えが伝わりにくいように思える。	68ページの戦略4「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちをつくる」の「戦略設定の背景」には、社会の支え手としての活躍について、記載しておりますが、ご意見を踏まえ、41ページの将来都市像2の政策2「〇高齢者福祉」の【現状と課題】【取組の方向】にも追記します。
8	若者の人口流出を抑制するとともに、一度県外に出た若者が帰ってきたいと感じ、帰ってくるができるまちづくりが重要である。	ご意見のとおり、本市に住み続けたい、本市に帰ってきたいと思っていただけのこと、そうした希望が叶うことが重要であると考えていることから、43ページの「〇若者」に追記するとともに、67ページ、戦略3の「戦略設定の背景」等に追記します。
9	プラスの循環戦略について、人口減少が進む中で、プラスをつくっていくことは難しいと感じる。プラスの循環が好循環を生み出すことを目指していることは分かるが、スパイラルになっていることが説明の文書から読み取れない。プラスのスパイラル戦略の方が伝わるのではないか。	「プラスの循環戦略」は、次期総合計画の計画期間である5年間で特に重点的に取り組む分野であり、稼いだ原資を、「ひと」と「まち」に再投資し、それがまち全体の価値を高めることで生まれた好循環が、将来にわたってつながり、拡大していくことを目指すものであり、「プラス」には、経済的な量はもちろん、市民の皆様一人ひとりの生活の質などを含んでいるものであります。
10	プラスの循環戦略の考え方はよく分かるが、秋田市の予算の中でこれだけのプラスを生み出せるのか違和感を感じた。シビックプライドなどの心や意識に関する循環もあると思う。また、循環（1巡して戻ってくる）のイメージを持っていたが、図がスパイラルなので、違和感を感じた。	戦略名としては変更いたしません、こうした考えがより伝わるよう、62ページの文章を修正します。
11	戦略3について、「こども・若者の希望が生まれるまち」が良いのではないかと、原案の記載内容を見ると、希望がある方に対する記載となっており、ゼロからイチになる視点の記載が無いので、そもそも希望を持つことに対する支援について記載してほしい。	67ページ戦略3「こども・若者の希望が叶うまち」につきましては、ご意見のとおり、様々な体験などを通じて、こども・若者が希望や可能性を見つけ、その希望が秋田市で叶えられることまでを後押しすることを含んでいるものであります。
12	戦略3「こども・若者の希望が叶うまちをつくる」は、こどもの希望ではなく親の希望が叶う内容になっており、重点プログラムⅠのKPIが「保育所等入所率」となっているが、入所率をあげることが本当にこどもの希望を叶えることにつながるのか。	戦略名は修正はいたしません、こうした趣旨がわかりやすくなるよう、「戦略設定の背景」に追記します。 また、KPIにつきましては、推進計画で対応します。

13	生まれてくる子どもたちが、本市に愛着を感じる視点がないように思う。未来の秋田市を描いてもらうなどで良いので、子どもたちのシビックプライドの醸成につながるような視点を盛り込んでほしい。	シビックプライドの醸成は、21ページの施策①「シティプロモーションの推進」における【施策の方針】「○シビックプライドと魅力の創造・磨き上げ」に、幼少期からまちの魅力を知り、誇りに思う取組を進めることを記載しておりますが、ご意見を踏まえ、67ページの戦略3「戦略設定の背景」にもこうした視点を追記します。 また、シビックプライドの醸成につきましては、60ページの「計画推進の基本姿勢」の(5)に「シビックプライド（まちへの誇りと当事者意識）」の醸成を図ります」を位置づけており、計画全体の推進に当たり職員共通の意識として浸透を図ってまいります。 なお、本市ではこれまでも、学校教育や体験活動、小学生の映像制作事業等を通じて郷土理解や地域への愛着を育む取組を進めてきたところであり、子どもたち自身が未来の秋田市を思い描き、まちと関わりを実感することで、シビックプライドの醸成が図られるよう取り組んでまいります。
14	企業誘致も大事だが、市民の暮らしを支えることも重要である。高齢者が日常の中でささやかでも生きがいを見つけられることが盛り込まれていると良い。	高齢者の皆様がこれまでの経験等をいかして活躍できるとともに、居心地の良い場や人とつながりをつくることも重要と捉えていることから、68ページの戦略4の「戦略設定の背景」に追記します。

【推進計画】

意見No.	意見内容	対応案
1	43ページ 施策①危機管理体制の確立の【施策の方針】に「危険空き家対策の推進」とあるが、今後空き家対策は、災害対策上、また、まちづくりの観点から重要になってくると考えられる。基本構想では、空き家対策が、50ページの○災害に強いまちづくりに入っているが、推進計画では、危機管理体制の確立に入っている。整合性がとれないのではないか。	ご意見を踏まえ、防災・減災の観点から、44ページの施策②「災害や雪に強いまちの確立」の【施策の方針】に「危険空き家対策の推進」を位置づけます。
2	45ページ 施策③防犯・安全体制の確立の【施策の方針】の中に、インターネットやSNS、電話等を介して行われる詐欺への防犯意識の高揚を図ることを入れられないか。 理由：第14次総合計画にあった「情報通信技術の利活用」（第15次では削除）に関連したものとして、デジタルデバイドの解消に関連する項目として残した方がいいのではないか。	ご意見を踏まえ、基本構想の50ページ「○防犯対策」に、詐欺被害について追記します。
3	51ページの【施策の方針】○自然環境の保全是、「生物多様性及び自然環境の保全」に変更できないか。 提案理由：本来、生物多様性の保全、という傘の下に自然環境の保全があると思っている。何のために自然環境を保全するのか？そこに住む生き物が人間を含め多様であれば自然環境というのは健全である。つまり生物多様性を意識した自然環境保全でなければならない。クマが過剰に都市部に出てくる問題も、生物ピラミッドの頂点のクマだけが異常に増えてしまった結果、多様性のバランスが崩れた。だから人間の住む領域に入り込み問題が起きるので適正数になるまで駆除する。これは駆除しなければクマだけが増えてしまい生物多様性のバランスを崩すからだ。自然環境保全だけの視点から言うと、保全した環境が単一の針葉樹だけを植生したとして、例えばそれが秋田杉であれば「秋田らしい」という人間中心の視点でOKとなる可能性もある。 つまり、将来都市像5「緑あふれる～」にある本市に住んで感じる、触れる、見ることのできるあふれる緑は、ただの植物の緑であってはならない、その下に住む生き物の多様性も保全された緑でなければならない。	ご意見を踏まえ、51ページの【施策の方針】の「自然環境の保全」を、「生物多様性および自然環境の保全」に変更します。

4	「本市の優位性」について、本市の得意とする分野は何か、その資源とするものは何か、それを活用して、どのような企業に来てほしいかということを探掘するような施策を、今回の計画の中に盛り込んでいただきたい。	ご意見を踏まえ、推進計画の60ページ、重点プログラムⅠの「ねらい」を修正します。
5	観光客数の内訳、インバウンドか日本人かが不明瞭であり、数字を詳細に分けるべきである。特に、竿燈祭りを重点的にどう伸ばすか、またはクルーズ船に関する数字などを含め、ざっくりしすぎた数字を詰める必要がある。国内外からの関係人口という表現が抽象的すぎ、日本人と外国人ではアプローチの仕方が変わるため、そこは掘り深すべきである。	ご意見を踏まえ、64ページ、戦略2の重点プログラムⅠ「地域資源の磨き上げと戦略的PRによる観光振興の推進」のKPIとして、国の統計から把握可能な、本市における「外国人延べ宿泊者数」を追加します。 観光客の属性や行動特性、国内外の内訳の把握については、現状では課題があると認識しております。今後は、人流データ等の分析結果に基づいた誘客を推進し、ターゲットごとの戦略的なプロモーションを展開してまいります。
6	戦略3「こども・若者の希望が叶うまちをつくる」は、こどもの希望ではなく親の希望が叶う内容になっており、重点プログラムⅠのKPIが「保育所等入所率」となっているが、入所率をあげることが本当にこどもの希望を叶えることにつながるのか。	こどもの保育所・幼稚園等の利用は、同年代との交流を通じて社会性や協調性を育むほか、家庭とは異なる環境での多様な経験によりこどもの成長が促されるものであり、保育所等への入所に伴う経済的負担の軽減を図ることにより、安心してこどもを生み育てやすい環境の整備につながるものであると捉え、KPIとして設定するものであります。 一方で、ご意見のとおり在宅でこどもを育てたいと考える保護者にとっても子育てしやすい環境をつくり、子育ての仕方を選択できることが重要との考えから、68ページ、戦略3の重点プログラムⅠのKPIとして、「こども誰でも通園制度市内各地区における利用見込みに対する充足率」を追加します。
7	戦略5の重点プログラム2「将来にわたり持続可能な公共交通体系の構築」のKPIについて、利用者数だけで効果を測るのはなかなか難しいと思う。数で見たときに、30万人近い人口がある秋田市の利用者数として6年かけて6万人増、一日あたり160人程度の増でいいのか。現状維持でいいのかと見られてしまうので、KPIの内容も含めて検討していただきたい。 おそらく公共交通の事業者は民間であるので、なかなか市として難しいかもしれないが、このKPIを見ると達成できるような数字を出しているようにも見られかねない。そこは勇気を持って、数ではなく質を選ぶのであれば距離なのか、そういったことも考えた方がよい。	年間バス等（路線バス、マイタウン・バス、エリア交通）利用者数については、作業を進めている第4次秋田市公共交通政策ビジョンの検討内容を踏まえ、74ページのKPIの目標値を600万人から640万人に変更したところであり、これと合わせてKPIも変更するものであります。現時点では、人口減少の進行に加え、コロナ禍による行動変容の影響からバス利用者数の回復には至っていない状況であります。利便性向上策等の着実な実施により、利用者増を目指すこととしております。 また、走行距離については、公共交通網の再編を目指す中で、指標の構成要素が大きく変動する可能性があるため、現時点でKPIとしての採用は困難であります。今後の検討材料とするため、モニタリングは実施してまいります。

8	KPIの設定に関して、根拠も見える必要がある。記載が無いと裏付けが無いように見える。	ご意見を踏まえ、数値目標とKPIの設定趣旨等について、84ページ～99ページに参考として掲載します。
9	産業振興というのは、それによって所得を増やして生活を豊かにするという要素のほかに、人口ビジョンと密接に関わっている要素がある。現時点では見えにくいですが、人口ビジョンとの接続性や、最終的な結論に持っていく経路といった部分が、今後の計画の中では必要になってくると感じたところがある。	
10	KPIについて、戦略4の重点プログラムIであれば、85.0%から85.2%になることでどのくらいインパクトがあるのかといったところも教えてもらえるとイメージが付きやすい。	
11	減災・防災の観点から、戦略5の重点プログラムIのKPI（雨水排水整備率）は令和12年度で少ししか増えていないように見えるが、これによって令和5年度規模の豪雨災害があった場合、どれくらい被害が少なくなるのか。	本市の浸水対策下水道事業については、国、県とともに策定した「水災害対策プロジェクト」に基づき進めており、施策の実施により、令和13年度においては、令和5年7月豪雨に対する床上浸水の被害は概ね解消されるものと想定しているものであり、このことを99ページに記載します。